

メモリアクセス異常発生時のエラー表示方式の選択について

Rev1.00 2009/09/14
DEF Ver7.70Bより対応

【概要】

Debugger用コントロールソフト (DEF) は、インスペクト表示等によりWord/Longの奇数番地アクセスや擬似空間外へのアドレスにアクセスをしようとした場合、ターゲット側から吸い上げる前に事前に判定し警告 (アラート) を表示しています。この異常表示をVer7.70Bより環境設定により表示方式の選択ができるように改善をしました。

【発生要素】

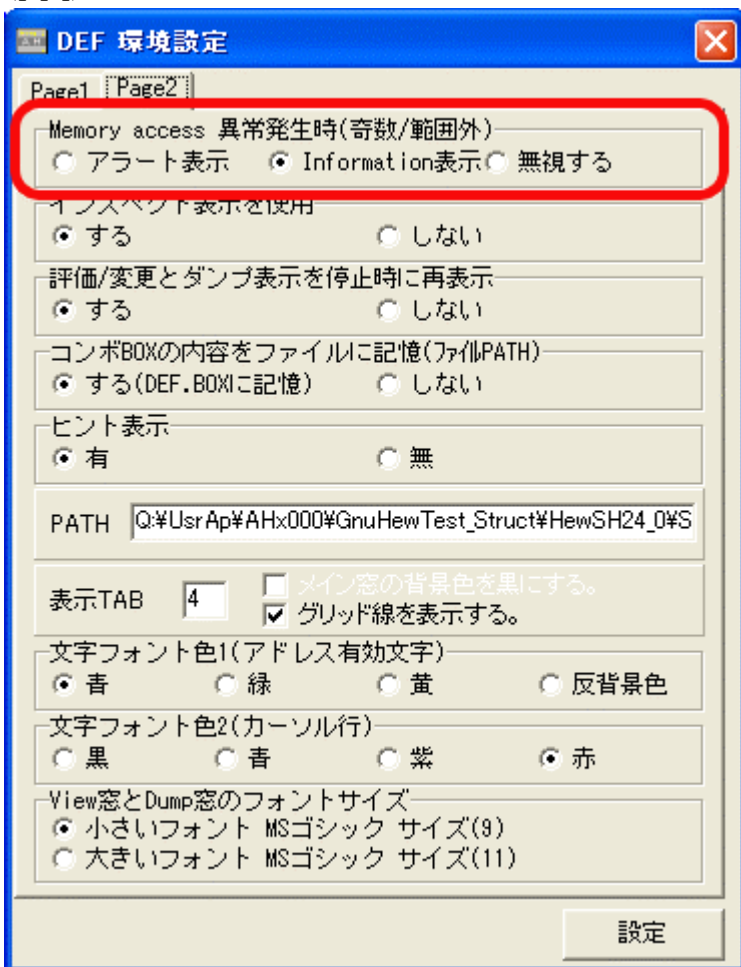
アドレスが確定していないポインタ変数や、初期化されていない添え字記述の配列変数をインスペクト表示等により参照しようとしますとアクセス異常になります。

ex) (long)*ptr; (char)array[i][j][k]; <----- 初期化前に参照した場合

【手順】

1. <オプション>-<環境設定>をクリックします。

<1-1-1>



「Page 2」タグをクリックします。

異常表示方式を選択します。

【アラート表示】

発生情報の表示と「継続」「キャンセル」を、その都度問い合わせします。

【Information 表示】

発生情報を、インフォメーション画面を開き表示しアクセスを中止して処理を継続します。

【無視する】

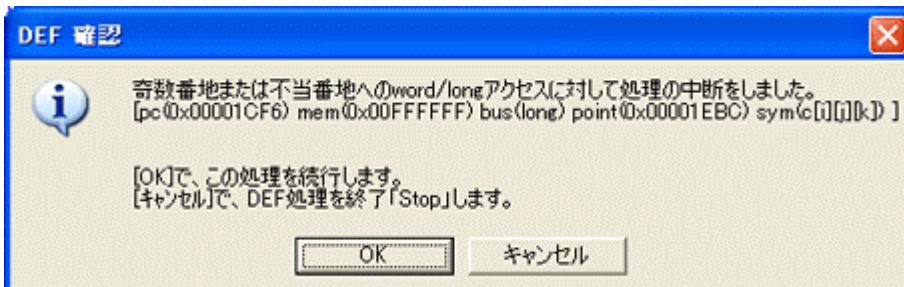
発生情報を、コマンド実行表示部に表示しアクセスを中止して処理を継続します。

<-選択後「設定」をクリックします。

【表示例】

1. アラート表示を選択した場合

<2-1-1>



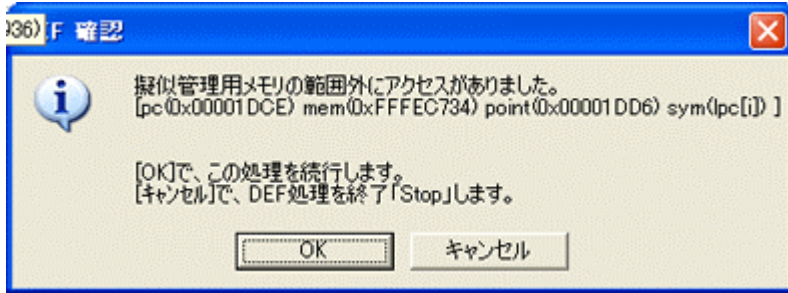
奇数番地へのアクセスがあった場合

pc(現PC値) mem(アクセスアドレス) bus(アクセス幅) point(マウスをポイントした行アドレス) sym(参照しようとしたシンボル)

「OK」 -----> アクセスを中止して、DEF処理を続行します。

「キャンセル」 ----> DEF処理を中止して、通信停止「Stop」状態にします。

<2-1-2>



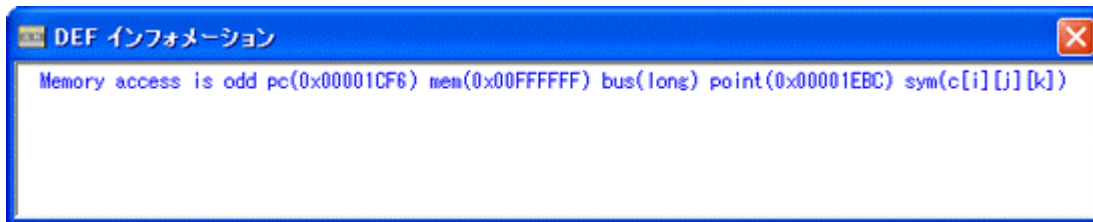
擬似メモリへの範囲外アクセスがあった場合

pc(現PC値) mem(アクセスアドレス) point(マウスをポイントした行アドレス) sym(参照しようとしたシンボル)

「OK」 -----> アクセスを中止して、DEF処理を続行します。
「キャンセル」 ----> DEF処理を中止して、通信停止「Stop」状態にします。

2. Information表示を選択した場合

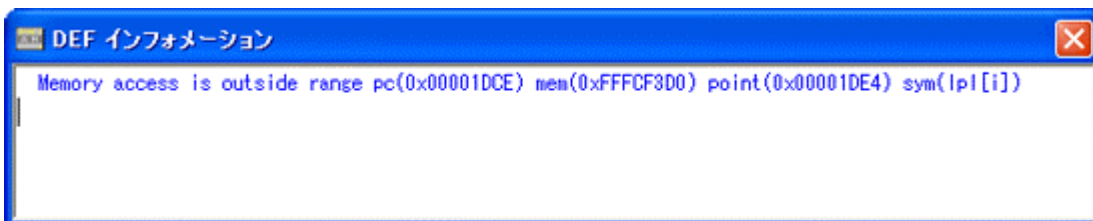
<2-2-1>



奇数番地へのアクセスがあった場合、インフォメーション画面を強制的に開き、情報のみインフォメーション画面に表示します。

pc(現PC値) mem(アクセスアドレス) bus(アクセス幅) point(マウスをポイントした行アドレス) sym(参照しようとしたシンボル)

<2-2-2>

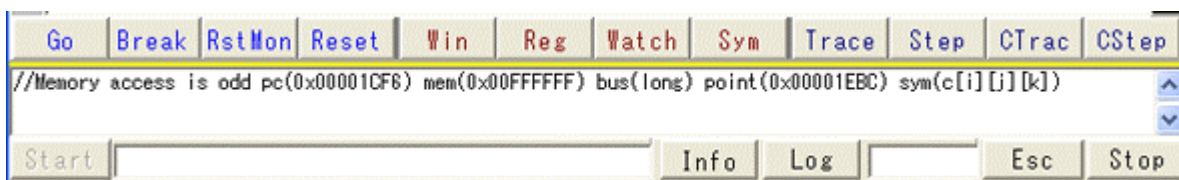


擬似メモリへの範囲外アクセスがあった場合、インフォメーション画面を強制的に開き、情報のみインフォメーション画面に表示します。

pc(現PC値) mem(アクセスアドレス) point(マウスをポイントした行アドレス) sym(参照しようとしたシンボル)

3. 無視するを選択した場合

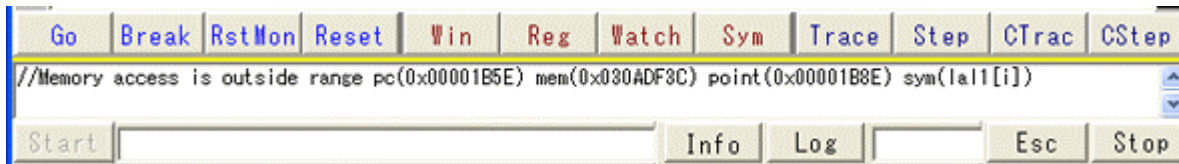
<2-3-1>



奇数番地へのアクセスがあった場合、コマンド実行表示部に情報のみ表示します。

pc(現PC値) mem(アクセスアドレス) bus(アクセス幅) point(マウスをポイントした行アドレス) sym(参照しようとしたシンボル)

<2-3-2>



擬似メモリへの範囲外アクセスがあった場合、コマンド実行表示部に情報のみ表示します。

pc(現PC値) mem(アクセスアドレス) point(マウスをポイントした行アドレス) sym(参照しようとしたシンボル)